

コウノトリ



毎週月曜日更新

カタカタ通信

第184号

「豊岡に行ってきました！」

2025年7月7日

6月中旬、兵庫県豊岡市へコウノトリの足環装着研修に行ってきました。



豊岡の風景

研修として参加した2日間、その中で目にしたコウノトリと人との関わりの風景はとても印象的で、心に残る時間となりました。

まず驚いたのは、車窓から次々に見える野外のコウノトリたち。田んぼに立っていたり、巣塔で子育てをしていたり、空を飛んでいたりと、いろいろな姿を見せてくれました。その姿は雄大で、堂々としていて、本当に美しかったです。「こんなにも近くに、こんなにたくさんのコウノトリがいるんだ」と、見るたびに胸が熱くなりました。



コウノトリのいる風景

豊岡では、コウノトリは特別な存在でありながら、決して“遠い存在”ではないんだということを、町の風景や人々の暮らしの中から感じることができました。巣塔の近くで農作業をしている人や、日々観察を続けている方の姿などからも、コウノトリと人との共生が感じられました。小学校のすぐ脇に巣塔があり、そこでコウノトリが子育てをしている様子も見ることができました。そんな光景から、コウノトリと人との距離の近さをあらためて実感しました。野生のコウノトリが、こんなにも当たり前のようにすぐそばにいるということが、新鮮で、不思議で、ちょっとうらやましくも感じました。

研修2日目には、実際の巣塔での足環装着作業に携わりました。作業はスピーディーかつ丁寧に行われ、私は作業者の一人として、足環の装着をはじめ、検体の採取や体の計測などにも関わらせてもらいました。



ヒナの捕獲風景



体の計測

とくに心に残っているのは、飼育している立場でありながら、普段は触れることのないコウノトリの体に、じかに触れ、間近で観察できたことです。足環装着の作業はこれまでも経験してきましたが、ヒナを両手で抱え、支え、羽や足にそっと触れながら進める一つ一つの作業の中に、毎回新たな学びがあります。羽の生え方、くちばしの温度や手ざわり、ふ化後およそ40日齢のヒナの重さなど、実際に触れるからこそ感じ取れることがたくさんありました。そんなヒナの姿はどこか無防備で愛らしく、頭にフード（目隠しの頭巾）をかぶせられた様子は、ちょこんとしていてとてもかわいらしく、思わず笑みがこぼれました。



目隠し頭巾をかぶったヒナ



目隠し頭巾をとったヒナ

私が足環を装着したヒナも、もうすぐ巣立ちの時を迎える頃です。今回の研修で得た経験を、今後の飼育・繁殖の現場に生かしていくとともに、コウノトリのことをもっと身近に感じてもらえるようなきっかけを、来館された方々にお届けできればと思います。

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター
飼育担当：ほっぴー